

十字架

知っておきたいキリスト教のことば (91)

街中を歩いていると、十字架のネックレスや十字架をデザインしたTシャツを身につけている人が見受けられます。しかしもともと、十字架は古代ローマにおける最も残酷な処刑方法でした。

ほぼ裸で木につけられることは死刑囚にとって屈辱的なことであり、また死にかかる時間も長かったので、大変な苦痛だったようです。



イエス様は約 2000 年前、十字架によって処刑されました。栄光の王であるはずのキリストがこのような死に方をしたということは、ユダヤの人たちにとっては大きな躓きとなります。またほかの人たちにとっても、目を背けざるを得ない出来事でした。

ところが異邦人の地で宣教し多くの手紙を書いたパウロは、人間はイエス様の十字架によらなければ、救いに与ることができないと言います。イエス様は十字架によって血を流し、わたしたちの罪を贖われます。その血によってわたしたちは罪の鎖から解放され、神さまの前に再び立つことができるということです。

わたしたちはイエス様の十字架によって新たにされ、新たな者として生かされています。ローマの信徒への手紙に、パウロはこのように書きます。

「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ばされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。」(ローマの信徒への手紙 6 章 6 節)

さらにイエス様は、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(マタイ 16:24) と命じられます。もはや十字架は処刑の道具ではなく、わたしたちの命のしるしとなっているのです。

次回は「十二弟子」です。お楽しみに。